



小田原市視察風景

令和4年10月19日、20日の2日間、神奈川県小田原市、松田町に総務文教委員7名と行政職員1名、議会事務局職員1名の9名で視察研修を行いました。

今回の視察の目的は、小田原市の公共施設の維持管理対策と松田町の空き家対策についての、取り組み状況と課題について視察しました。

小田原市では、今後の人口減少によって、市の財源不足が将来的に見込まれることから、持続可能な行政サービスを実現するため、公共施設再編基本計画を策定し、施設機能・配置の適正化、施設総量の縮減に努められていました。

なお、事業の再構築を進めるにあたって、対象となる施設や業務、契約期間などについて、広く民間事業者から意見を聴くためにサウンドディング型市場調査を実施されていきました。サウンドディング型市場調査については、自治体のプロジェクト構想段階で、市民や民間企業から市情勢の有無やアイデアを求め事業者がより参加しやすい公募条件の設定を把握するための調査であり、調査を行う自治体も増えてきていることから有用な調査手法であり、併せて、地域の方々の意見を広く聞くことも大事だと思われました。

松田町では、空き家予防と空き室対策を一体的に実施し、人口減少対策を行うとともに将来的な空き家対策に関する経費の抑制、景観保持、定住人口の増加、流通促進を目的として先駆的空き家対策モデル事業を実施されています。

高齢化による空き家発生の予防については、リーフレットの作成や終活講演会の開



松田町視察風景

催、また、個別相談会を開催するなどして空き家予防意識づけを図られており、自身も所有する不動産を家族と相談するきっかけにもなり、管理不全の空き家発生の抑制につながっている。多久市でも空き家発生の予防の取り組みの一環としてリーフレットの作成や終活講演会等を継続的に行う必要があると思われました。

空き家対策事業に対して民間との連携などに積極的であり、役場全体での問題意識や住民の関心なども高く、多久市も取り組むべきと感じました。



松田町視察風景

令和4年12月定例会

令和4年12月市議会定例会は12月2日から12月19日まで（会期18日間）開かれました。今回は、7人の議員が市政一般に対する質問を行いました。12月定例会では、市長から提出されました議案25件（条例13件、予算12件）の議案について審査し、いずれも原案どおり可決したほか、意見書1件を可決しました。

閉会中審査報告

総務文教委員会 閉会中審査報告

閉会中継続審査事件として取り組んでいる「公共施設の維持管理対策」について、担当課より「多久市公共施設個別施設計画(案)」の説明を受けました。

対象となる施設は、床面積200㎡以上の39施設となっており、総量の縮減及び規模の適正化を目的とした施設の再配置を実施しつつ、将来にわたって維持管理を継続していく施設については施設の長寿命化を推進することになっています。

個別施設計画には、行政系施設や学校教育系施設、スポーツ・レクリエーション系施設などといった施設類型ごとに取り組み方針やスケジュールが示されています。

委員からは、建替え場所の選定や建替え場所周辺の土地の利活用について土地の確保を含めて時間がかかるので、早い段階から手を付けていくべきでないか、また、施設の集約化についてはよく考えて行うべきなどの意見が出ました。他にも、民間事業者のアイデアを募集してはどうか、また市民の合意を取り付けな



東庁舎周辺

がらやってもらいたいという意見がありました。

産業厚生委員会 閉会中審査報告

閉会中審査事件として取り組んでいる「持続可能な営農への取り組み」について、担当課では、肥料価格や飼料価格が高騰していることから、農業者の経営意欲が減退していることに対し支援を行い、生産意欲の向上と、経営の継続及び安定を図られています。

また、農業経営収入保険への加入



を促進し、保険料の一部を支援することにより経営の安定と継続を図るなど、営農が持続できるための事業に取り組んでいることが認められます。

今後についても、市内5土地改良区及び、酪農家や花などを栽培されている花卉農家等への電気料金高騰に対する一部支援も計画されているなど、本委員会の目指している営農の持続を可能とする方向性が確認されたため、継続審査を終了することとしました。